

中間試験

問題 1

次の資料により材料勘定及び賃金給料勘定の記入と締切りをしなさい。なお、材料については実際消費量を継続記録法、消費価格は予定消費価格@200 円を採用している。また、月末において実際消費価格を先入先出法によって計算している。

ただし、使用する勘定科目等は、下記の中から適切なものを選択し記号を用いて解答すること。

ア：前月繰越 イ：仕掛品 ウ：買掛金 エ：賃金給料 オ：貸率差異
カ：次月繰越 キ：損益 ク：材料 ケ：製造間接費 コ：預り金
サ：未払賃金給料 シ：現金 ス：材料消費価格差異

<資料>

5月1日 前月繰越 素材 250kg @195 円 48,750 円

9日 素材 246,000 円 (1,200kg) を掛で購入した。

13日 素材 1,000kg を製造指図書 No.2 に出庫した。

15日 素材 300kg を間接材料として出庫した。

31日 素材の材料消費価格差異を計上した。

31日 素材の月末実地棚卸量は 120kg であり、棚卸減耗損を計上した。

5月1日 直接工の前月末未払額は 25,000 円である。

25日 直接工の当月支給総額は 220,000 円であり、預り金 18,000 円を差引き残額は現金で支払った。

31日 直接工の実際就業時間の内訳は次のとおりである。

直接作業時間 175 時間 間接作業時間 22 時間 手待時間 3 時間

なお、消費賃率は、予定消費賃率を採用し、1 時間当たり 950 円であった。

31日 直接工の当月末未払額は 28,000 円である。

また、賃金給料勘定における貸借差額を賃率差異勘定へ振り替えた。

材料		賃金給料		(単位：円)
(単位：円)				
5/1 (ア) 48,750	5/13 (イ) (200,000)	5/25 (コ) (18,000)	5/1 (オ) (25,000)	
9 (イ) (246,000)	15 (イ) (60,000)	" (シ) (202,000)	31 (イ) (166,250)	
	31 (ス) (4,000)	31 (オ) (28,000)	" (イ) (23,750)	
	" (イ) (6,150)		" (オ) (23,000)	
	" (カ) (24,600)			(298,000)
		(248,000)		
(294,750)	(294,750)			

学生番号

氏名

問題 2

次の資料に基づき、各問に答えなさい。

<資料>

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1、月間の予定機械作業時間（基準操業度） | 4,000 時間 |
| 2、月間の製造間接費予算 | 1,600,000 円 |
| 3、当月の実際機械作業時間 | 3,850 時間 |
| 4、当月の製造間接費実際発生額 | 1,586,200 円 |

問 1 上記の資料に基づいて製造間接費を予定配賦した場合の製造間接費勘定を作成しなさい。

製造間接費		(単位：円)
諸	口 (1,600,000)	仕 掛 品 ()
		製造間接費配賦差異 ()

問 2 問 1 の製造間接費配賦差異を予算差異と操業度差異に分解しなさい。なお、固定予算によること。

予算差異	3,800 円 (借方・貸方)	操業度差異	60,000 円 (借方・貸方)
------	-------------------	-------	--------------------

なお、借方差異は借方、貸方差異は貸方に○を付けなさい。(以下、同様)

問 3 問 1 の製造間接費配賦差異を予算差異と操業度差異に分解しなさい。

なお、資料 2 の製造間接費予算の内、30%は変動費であり、それ以外は固定費とし公式法変動予算によること。

予算差異	4,200 円 (借方・貸方)	操業度差異	42,000 円 (借方・貸方)
------	-------------------	-------	--------------------

中間試験

問題 3

次の資料に基づき、各勘定と損益計算書の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。

なお、当社では、機械作業時間を基準に製造間接費を予定配賦しており、当期の年間予定機械作業時間は 15,000 時間、年間製造間接費予算額は 45,000 千円である。また、これにともなう配賦差異は当期の売上原価に賦課する。

1, 棚卸資産

	期 首 有 高	当 期 仕 入 高	期 末 有 高	
素 材	2,000 千円	16,000 千円	3,000 千円	(注) 直接材料費 = 素材消費額
補 助 材 料	400 千円	5,500 千円	800 千円	
仕 掛 品	10,250 千円	—	15,250 千円	
製 品	20,000 千円	—	35,000 千円	

2, 賃金

	期 首 未 払 額	当 期 支 給 額	期 末 未 払 額	
直 接 工	5,200 千円	22,000 千円	7,200 千円	(注) 直接労務費 = 直接工賃金消費額
間 接 工	2,000 千円	12,000 千円	3,000 千円	

3, 経費

工 場 水 道 光 熱 費	7,000 千円	工 場 減 価 償 却 費	10,000 千円
保 管 料	8,000 千円	そ の 他 間 接 経 費	7,000 千円

4, 当期の実際機械作業時間は 14,650 時間であった。

5, 販売費および一般管理費

営業所建物減価償却費	20,000 千円	本社建物減価償却費	10,000 千円
広 告 費	5,000 千円	重 役 室 費	3,000 千円
営業所事務職員給料	2,000 千円	そ の 他 販 売 費	1,500 千円

財務諸表 I 定期試験

問題 1

当社は、単純個別原価計算を行なっている。次の資料に基づき、指図書別原価計算表、仕掛品勘定及び製品勘定の()内に適当な金額を記入しなさい。

1、各製造指図書に関する当月のデータは、次のとおりである。

製造指図書	直接材料費	直接労務費	直接作業時間	備考
No.101	40,000 円	30,000 円	20 時間	前月着手、当月完成・引渡
No.102	520,000 円	90,000 円	60 時間	当月着手・完成、当月未引渡
No.103	450,000 円	82,500 円	55 時間	当月着手、当月未未完成

2、製造間接費は、直接作業時間に基づいて各指図書に予定配賦している。

なお、当月の製造間接費に関する資料は以下のとおりである。

製造間接費予算額 300,000 円(月間)、予定直接作業時間 150 時間(月間)、当月実際発生額 350,000 円

3、月初仕掛品 (No.101) は、520,000 円であった。

4、月初製品 (No.100) は、800,000 円であり、当月中に引渡し済みである。

指図書別原価計算表

(単位：円)

摘 要	No.101	No.102	No.103	合計
月初仕掛品原価	()	—	—	()
直接材料費	()	()	()	()
直接労務費	()	()	()	()
製造間接費	()	()	()	()
合 計	()	()	()	()

仕掛品

(単位：円)

前月繰越 ()	製 品 ()
材 料 ()	次 月 繰 越 ()
賃 金 給 料 ()	
製造間接費 ()	
()	()

製品

(単位：円)

前月繰越 ()	売 上 原 価 ()
仕 掛 品 ()	次 月 繰 越 ()
	()

財務諸表 I 定期試験

学生番号

氏名

問題 2

次の資料に基づき、下記の各問に答えなさい。月末仕掛品の評価方法は、先入先出法によること。

1、生産データ

月初仕掛品	500kg (40%)
当月投入	2,000kg
合計	2,500kg
月末仕掛品	400kg (50%)
差引	2,100kg
正常仕損	100kg
完成品	2,000kg

2、原価データ

月初仕掛品原価	
直接材料費	60,000 円
加工費	45,000 円
当月製造費用	
直接材料費	475,000 円
加工費	420,000 円

なお、仕掛品の()内は加工進捗度を示す。また、材料は工程の始点で投入する。

問 1 月末仕掛品原価および完成品総合原価を算定しなさい。なお、正常仕損は始点で発生しており、正常仕損費は月末仕掛品と完成品に負担をさせる。また、仕損品の評価額は 0 円とする。

問 2 月末仕掛品原価および完成品総合原価を算定しなさい。なお、正常仕損は終点で発生しており、正常仕損費は完成品に負担をさせる。また、仕損品の評価額は総額で 12,000 円とし、直接材料費より控除する。

問 1

月末仕掛品原価

直接材料費	(100,000) 円
加工費	(42,000) 円
合計	(142,000) 円

完成品総合原価

直接材料費	(435,000) 円
加工費	(423,000) 円
合計	(858,000) 円

問 2

月末仕掛品原価

直接材料費	() 円
加工費	(40,000) 円
合計	(132,600) 円

完成品総合原価

直接材料費	() 円
加工費	(425,000) 円
合計	(855,400) 円

財務諸表 I 定期試験

問題 3

次の資料に基づき、仕掛品勘定および原価差異を算定しなさい。なお、仕掛品勘定の記帳方法はパーシャル・プランによること。

資料 1 生産データ

月初仕掛品	800 個 (50%)
当月投入	7,200 個
合計	8,000 個
月末仕掛品	1,000 個 (80%)
完成品	7,000 個

なお、仕掛品の () 内は加工進捗度を示す。
また、材料は工程の始点で投入する。

資料 2 標準原価カード

費目	標準消費量	標準価格	金額
直接材料費	3kg	@300 円	900 円
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	0.4 時間	@400 円	160 円
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	0.4 時間	@500 円	200 円
	製品 1 個あたりの標準原価		1,260 円

資料 3 実際原価データ

直接材料費	6,481,500 円 (21,750kg)
直接労務費	1,346,020 円 (3,340 時間)
製造間接費	1,743,200 円

資料 4 月間の公式法変動予算

変動費率	@200 円
固定費予算額	1,050,000 円
予定直接作業時間	3,500 時間 (基準操業度)

仕掛品		(単位: 円)
前月繰越 ()	製 品 (8,820,000)	
材 料 (6,481,500)	原 価 差 異 (498,720)	
賃 金 給 料 (1,346,020)	次 月 繰 越 ()	
製 造 間 接 費 (1,743,200)		
(10,578,720)	(10,578,720)	

原価差異の内訳

材料価格差異 (43,500) 円 (有利・不利)
材料消費量差異 (45,000) 円 (有利・不利)
労働賃率差異 (10,020) 円 (有利・不利)
労働時間差異 (18,000) 円 (有利・不利)
予 算 差 異 () 円 (有利・不利)
変動費能率差異 (76,000) 円 (有利・不利)
固定費能率差異 (114,000) 円 (有利・不利)
操 業 度 差 異 (48,000) 円 (有利・不利)

※なお、有利または不利のいずれかを○で囲むこと。

財務諸表Ⅰ 定期試験

問題 4

問 1 以下の資料に基づき、高低点法による原価分解をしなさい。なお、正常操業圏は 200 個から 400 個である。

<資料>

	生産量	製造原価		生産量	製造原価
1月	230 個	351,250 円	4月	360 個	457,800 円
2月	270 個	385,000 円	5月	330 個	432,000 円
3月	380 個	464,500 円	6月	190 個	325,000 円

問 1	変動費率	@ (155) 円	月間固定費額	(177,600) 円
-----	------	-------------	--------	---------------

問 2 以下の資料に基づき各設問に答えなさい。

<資料>

損益計算書 (単位: 円)

売上高	1,250,000
変動費	800,000
貢献利益	450,000
固定費	360,000
営業利益	90,000

【設問】

- ① 損益分岐点売上高を求めなさい。
- ② 損益分岐点比率を算定しなさい。
- ③ 希望営業利益 180,000 円を達成する売上高を求めなさい。
- ④ 希望売上高営業利益率 20%を達成する売上高を求めなさい。
- ⑤ 経営レバレッジ係数を算定しなさい。

問 2	①	②	③	④	⑤
	(1,000,000) 円	() %	(1,500,000) 円	() 円	(5)